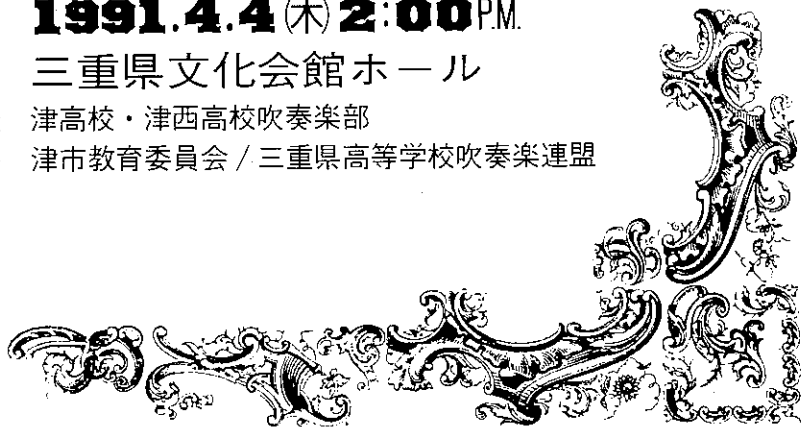




第一回

津・津西吹奏楽演奏会

と き **1991.4.4 (木) 2:00PM.**
と ころ 三重県文化会館ホール
主 催 津高校・津西高校吹奏楽部
後 援 津市教育委員会 / 三重県高等学校吹奏楽連盟



祝 辞



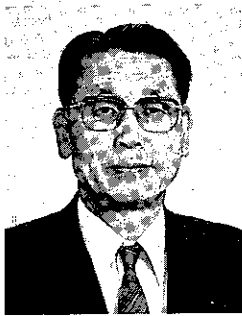
三重県高等学校吹奏楽連盟

理事長 園田 幸男

この度、津・津西高等学校両吹奏楽部により第1回吹奏楽演奏会が開催されるはこびとなりましたことを心からお祝い申し上げます。

両校とも県下に誇るバンド実力を持ち、それぞれ県内外におけるコンクール・高校総合文化祭において素晴らしい活動をしておられます。この度、両校の協力により当地に高校の吹奏楽演奏会が誕生しましたことを大変うれしく思います。

本日は、両校吹奏楽部のみなさんの「青春の曲」を存分に楽しみたいと思います。そして、この演奏会が益々発展いたしますことを祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



津高等学校長 上野 喜久生

春光うらかな好季節に第一回津・津西吹奏楽演奏会が皆様のご支援を得て、ここに盛大に開催出来ますことは誠に喜ばしい限りであります。

両校はかねてからスポーツの分野において毎年親善試合を実施して参りました。このたびは、文化方面で活躍している吹奏楽部が、日頃の活動の成果を発表し、お互の交流を通じて演奏技術の向上につとめ、併せて地域の人々に吹奏楽活動への理解を深めていただくべく本演奏会を計画致しました。

練習すべき適切な場所や時間が不足している本校の現状で、生徒自らが自主的な活動のもと本日迄精一杯の努力を重ねてまいりました。出演者一同は今回の演奏会における貴重な体験を糧として、両校の親善を更に深め、技術を磨き、積極的なクラブ活動を展開することと期待致しております。今後とも皆様の格別のご指導をお願い申し上げます。

津西高等学校長 小林 徹



二群同志の親善行事は、これまでスポーツに限られていましたが、今度、津、津西、両校の吹奏楽部の合同演奏会が開催されることとなり、群制度が生まれて18年目に文化面での交流が誕生したということで、大変嬉しく思っています。

両校とも部員の皆さんは、平素から熱心に練習され、よき指導者を得て技術的にも優れたものをもっていると聞いております。

何か一つの楽器を奏でることができるといことは、生きて行く上での心の支えとなるものであり、美しいものを愛する心、芸術を愛する心へと連っていくものだと考えます。

吹奏楽にしろ、オーケストラにしろ、個人の力量もさることながら、全体としての音のバランスが大切であります。そして、津高は津高の、西高は西高の音により、相互に高め合いながら、素晴らしい演奏を聴かせてほしいものです。合同演奏会のご成功を心から祈っております。

津高紹介

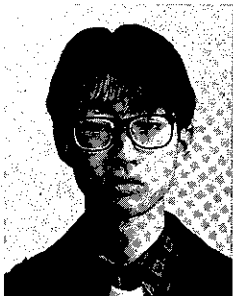
三重県立津高等学校は、明治13年1月に創立された三重県立津中学校と明治34年4月に創立された三重県立高等女学校とが昭和23年に統合されて開校された、県下一古い高校です。創立110周年を迎えたわが校は数多くの優れた人材を社会に輩出し続け、現在も約1,500人の生徒が勉学に励んでいます。そして開校当初から現在に至るまで脈々と受け継がれてきたのが、自主・自律の精神です。本校の生徒は制服や細かい校則に縛られることなく、自由に高校生活を送っています。

自主・自律を唱える本校にふさわしく、我が津高吹奏楽部は学生運営をモットーとしています。実務面ではしっかり者の部長が、演奏面では他校の先生に勝るとも劣らない学生指揮者を中心として部員自身の手でクラブを運営しています。といつつ、やっぱり顧問の先生に頼ってしまい、先生は我が吹奏楽部のために、日々文字通り東奔西走していらっしゃるのです。ああ、ありがたや。

ありがたいといえば、忘れてはならないのがOBの存在です。現役当時にクラブに傾けた情熱をそのまま私たちに注いでくださる、熱意ある先輩ばかりです。そして、とっても明るいのです。そういう伝統を受け継いでいる私たちは、もちろん明るくてクラブが大好きな連中ばかり！なのです。

今日は、こんな私たちの音楽がみなさんに少しでも伝われば、幸いです。

部長挨拶



本日は第一回二群合同演奏会に御来場頂きまして有難うございます。

我々津高吹奏楽部は、今までに校外で他の高校の人達と一緒に演奏したことはありますが、今回のように津・津西高校だけで演奏会を開くのは初めてです。このような事を経験した人も当然少ないわけで、当日までの準備にいろいろ苦勞しました。この苦勞を乗り越え、演奏会当日を迎えられるのも、津・津西各先生方、OB、OGとして我々を見守って下さる先輩方、保護者の皆様、そして我々の演奏会に御来場して下さった皆様のおかげであると思います。この場をお借りして御礼申し上げます。

この演奏会が皆様に「よかったなあ。」と思って頂ければ幸いです。

部長 赤塚 晋也

顧問・指揮者紹介

鈴木 征一郎



津高吹奏楽部の顧問をしてくださっているのは鈴木征一郎先生です。そして、いつも影ながら私達を支えてくれている頼もしい先生でもあります。毎日愛車の「黒のワンボックスカー」に乗り、窓を開けるとお茶目なワカメヘアーがなびきます。学校では白衣の似合う化学の先生で、授業では時々脱線し、ユーモアもまじえ、熱弁をふるわれます。

さて今日はこの鈴木先生が指揮台に上がられます。おたのしみに。

石橋 佳代子

水曜日の6限目、必修クラブの時間。津高の4号館の洋室で「これやこの～、ひさかたの～」という美しい万葉調の読み声が響きます。この美しい声の主が、そうです、石橋佳代子先生です。先生は普段は国語の先生をされていて、その内容はなかなかのものだとか。そしてブラスでは、顧問として「いつもみんなのことをこまかく気遣ってくれる優しいお母さま」を演じてくださいます。とかくオーバーヒートしがちな私たちにとって先生はありがたい存在なのです。



高橋 唯



彼は、合奏中に時々、私達を睨みませんが、その瞳は常に何かを訴えています。兄のような暖かみややさしさと、厳しく鋭い感覚の両面を備えている彼ですが、その音楽性が私達のバンドサウンドに大きな影響を及ぼしていることは、いうまでもありません。今日は、音にこだわり、曲の持つ音楽性を追求してやまない彼の、派手で情熱的な指揮をたっぷりお楽しみ下さい。

浅野 信行

津高の指揮台を飾る新進気鋭の指揮者。「浜の真砂は尽きるとも、世に音楽好きの種は尽きない」「人間は演奏する葦である」等の名言で知られる自由奔放、天衣無縫、馬耳東風、国士無双の名(迷?)指揮者。うなる指揮棒風の如く、熱いハートは炎の如く、昨年の大河は翔ぶが如く、熱いハートは炎の如き、彼の疾風怒濤の棒さばき、今日はいかなることになりますか、乞う御期待。



津西高紹介

我が津西高校は創立20周年にも満たないという、比較的新しい学校です。ですからこの吹奏楽部もまだまだ歴史が浅いのです。しかし、現在のところ部員は、およそ3年生が25人、2年生が30人とたくさんいて、さかんなクラブです。西高は市街から少し離れていて、不便な場所にあります。でもその分、緑に囲まれていて、静かで、練習する場所がたくさんあるので、音楽を奏するには最適の環境だといえるでしょう。

部員はみんな明るくて楽しい人が多いので、クラブはいつもにぎやかです。でもやる時はやる、ということをもっとに練習に励んでいます。テストが多いので、練習時間があまりとれませんでした。それなりに1人1人が少ない時間を有効に使うように心掛けてきました。今回が初めての定期演奏会になるというプレッシャーがみんなにあったようですが、頑張って練習してきました。何もかも初めてのことで戸惑うことが多く、色々な失敗もありました。何しろ、このクラブは人数が多いので、1つにまとまるということはなかなか難しいことです。津高との合同練習会は学ぶべきことがたくさんあり、良い機会となったと思います。本日の演奏会で今までのことが十二分に発揮できるように頑張りたいと思います。

部長挨拶



本日は御来場いただき誠にありがとうございます。我が吹奏楽部も本年度から『津・津西吹奏楽演奏会』という形をもって、第一回定期演奏会を開催できる運びとなりました。これも一重に皆様方の平素の御支援の賜と部員一同心より感謝致しております。またこれを機に、より充実した部活動が行われるよう、進めていきたいと思っております。

さて我が津西高等学校吹奏楽部は18年の歴史において、多くの先輩方が様々な努力をしてつちかかってきた音色を受け継ぎ、皆様方に満足していただける演奏、心に残る演奏を目指して練習に励んで参りました。本日はその音色をもって精一杯演奏させていただきます。まだまだ未熟な演奏かもしれませんが、どうか最後までお聴き下さるよう、また御批判、御指導いただけますよう、よろしく願い申し上げます。最後に、我が吹奏楽部のために御尽力いただきました多くの先生方、OBの方々に紙面上ではございますが、厚く御礼を申し上げます。

吹奏楽部部长 南部 幸嗣

顧問・指揮者紹介

阪野 徹



今年で顧問になられて7年目になりました。指揮の腕前はもちろんのこと、音楽の先生だけあって歌声もなかなかのものです。そして私達にやさしく、時には厳しく指導してくれます。暖かな笑顔とおもしろい話で私達の緊張をほぐして下さる先生は本当に頼りになります。今日は見ているだけで楽しくなるような棒さばきをお楽しみ下さい。

白井一昭

白井先生は吹奏楽部の顧問ですが、実は数学担当の先生なのです。でも音楽知識も豊富で、細かなミスもすぐにわかってしまい、数学の先生だとは思えません。色々と事務的な仕事をやって下さる先生は、我がクラブになくはない存在です。



国分雅子



いつも優しい笑顔で私達を手伝って下さる国分先生は、合宿での食事作りを先頭となってして下さい、まさに縁の下の力持ち。何事もきばきとこなしてしまわれ、今回も本当に面倒をかけてしまいました。服のセンスもなかなかオシャレです。

横辻慶子

クラブ全体をまとめているしっかり者の先輩。指揮棒をふる時は厳しい先輩ですが、冗談を言ったりして私達を楽しませてくれる優しい先輩です。サックスの腕前もかなりのものです。今日はサックスと指揮の両方で活躍します。



渡辺 愛



この夏、指揮になったばかりですが、指揮棒をふる姿には貫録ができました。一見まじめそうに見えますが、笑顔がとてもかわいく明るい女の子です。又、サックスならアルトからバリトンまでこなしてしまいます。今日のような大きい舞台での指揮は初めてですが、彼女ならきっとひっぱってってくれるでしょう。

プログラム

◆ 第I部 (津高)

トッカータとフーガニ短調
指揮 高橋 唯
J. S. Bach 作曲
藤田玄播 編曲

イン・ザ・ムード
指揮 鈴木 征一郎
Joe Garland 作曲
岩井直溥 編曲

サウンド・オブ・ミュージック・メドレー
指揮 浅野 信行
R. Rodgers & O. Hammerstein II 作曲
岩井直溥 編曲
ナイス デイ
大野 三千代 作曲
森田 一 浩 編曲

◆ 第II部 (津西高)

ハレ
指揮 渡辺 愛
岩井直溥 編曲
行進曲「士官候補生」
J. P. Sousa 作曲

ムーンライト セレナーデ
指揮 横辻 慶子
杏里メドレー
G. Miller 作曲
岩井直溥 編曲

◆ 第Ⅲ部 (津・津西高合同)

指揮 高 橋 唯

バレエ音楽「三角帽子」より、終幕の踊り

Manuel de Falla 作曲

B. Wiggins 編曲

指揮 阪 野 徹

組曲「惑星」より、“火星” “木星”

Gustav Holst 作曲

曲目解説

トッカータとフーガニ短調 (J. S. Bach)

この曲は、バッハの数多い作品の中でも最も有名なものの一つに数えられるものです。原曲はオルガン曲ですが、ピアノ編曲やオーケストラ編曲によっても広く親しまれています。バッハがこの曲を作ったのは、青年期のことであり、当時のオルガン楽派の大家ブックステフーデの影響を大きく受けています。そして、その影響下において、自由な形式、激しい感情の起伏によって「バッハらしさ」が十分に表現され、若き日のバッハをうかがい知ることができます。

サウンドオブミュージックメドレー (R. Rodgers & O. Hammerstein II)

この曲は実話をもとにしてつくられ、'65年には映画化された同名のミュージカルのヒットナンバーをメドレーにしたものです。アルプスの雄大な自然を思いおこさせる、主題歌「サウンド・オブ・ミュージック」、^①「すべての山に登れ、や、とてもかわいらしい感じのする、^②一人ぼっちの羊飼いの、^③「エーデルワイス」、^④「さようなら・ごきげんよう、そしてとても元気よく歌われる「ドレミの歌、など、誰でも必ず一度は聞いたことのあるメロディがあり、とても親しみやすい曲です。

ハレ (岩井直溥)

1985年に発表された、人気フュージョン・グループ「カシオペア」のアルバム「H ALL E」に収められているヒットナンバーです。ブラスの歯切れのよいリズムとパーカッションにのったバランスのよいハーモニー、若者向きの明快なサウンドをお楽しみ下さい。

杏里メドレー (岩井直溥)

「Cats eye」などで有名な、杏里の数々の曲の中から、今日は「Circuit of Rainbow」、デビュー曲である「オリビアを聴きながら」、そして「悲しみがとまらない」の3曲をメドレーにしてお送りします。TV・ラジオなどで、みなさんも一度は耳にしたことのある曲もあるかと思います。

さあ、いっしょに口ずさんだりしながらお聞き下さい。

バレエ音楽「三角帽子」より終幕の踊り (Manuel de Falla)

この曲の作曲者であるM.de.ファリャは、アルベニスやグラナドスと並ぶ近代スペインを代表する作曲家である。彼の出世作となったバレエ「恋は魔術師」に注目した『バレエの神様』S. ディアギレフの依頼によって書かれたのが、この「三角帽子」である。

『三角帽子』とは、このバレエに出てくる悪代官のかぶる権力の象徴となっている帽子のことである。

そのフィナーレの音楽がこの「終幕の踊り」で、短い序奏の後スペイン的な主要主題が現れる。これはホタ(JOTA)特有の旋律で大変親しみやすい。ホタというのは北スペインの民族舞踊で、急速な3(6)拍子の音楽である。曲は複雑な拍子変化を経て、次第に発展しながら熱狂的なフィナーレを迎える。

組曲「惑星」 (Gustav Holst)

この曲はG.ホルストが1916年に、2台のティンパニ、パイプオルガン、女性合唱を含む4管編成の大オーケストラのために書かれた管弦楽曲で、初演は非公開で1918年サー・エイドリアン・ボルトの指揮で行われている。ちなみに公開(全曲版)では1920年アルバート・コーツの指揮で行われている。この曲は管楽器の全体に占める割合が高く、吹奏楽編曲にはかなり適していると言えるだろう。

火星一戦いをもたらす者

まず5拍子の戦局的で無気味なリズムが提示され、このリズムに乗りバスーンとホルンによる最初の主題が現れる。この主題は木管、金管ともに厚みを増していき、金管群によるファンファーレや新たな主題を交じえながら発展していく。ゆるやかな中間部の後、最初の強烈なリズムがよみがえり、打楽器、金管群の強奏の中、力強く曲をしめくくる。

木星一快楽をもたらすもの

全曲中もっとも変化に富んだ楽章で、中間部のゆったりしたメロディは『第二の国歌』と呼ばれるほど英国国民に親しまれている。木管によるスタッカートの立ち上がりの導入に続き、シンコペーションによる動機が現れる。全篇を通じて6本(ここでは10本)のホルンが大活躍する。全体が歓びに満ちあふれた楽章である。

津 高 名 簿

部 長	赤 塚 晋 也	書 記	西 村 佳 子
副 部 長	小 畑 淳	会 計	宮 田 浩 子
副 部 長	村 田 ひろ美	指 揮 者	浅 野 信 行
書 記	高 木 大 輔	指 揮 者	高 橋 唯

Fl.

杉 山 佳代子 ③ (橋 北)
 小 川 祐賀子 ② (瑞穂ヶ丘)
 西 村 佳 子 ② (南 郊)
 ☆宮 田 浩 子 ② (南 郊)

Ob.

☆杉 本 伯 子 ② (亀山中部)

Cl.

後 藤 静 香 ③ (天 栄)
 中 村 奈 美 ③ (赤 目)
 萩 森 あづさ ③ (青 山)
 池 山 直 子 ② (久 居)
 勝 見 治 恵 ② (橋 北)
 神 田 智 美 ② (橋 南)
 斎 藤 祐 子 ② (嬉 野)
 ☆藤 谷 雅 紀 ② (附 属)

Sax.

高 橋 唯 ③ (亀山中部)
 水 谷 拓 司 ③ (関)
 足 立 美 和 ② (南 郊)
 ☆河 北 知 美 ② (神 戸)
 前 田 純 代 ② (天 栄)

Tp.

渋谷 佳 克 ③ (橋 北)
 ☆北 後 俊 輔 ② (名張南)
 高 木 大 輔 ② (白 子)
 小 暮 美 幸 ② (橋 北)
 村 田 ひろ美 ② (関)
 和 田 直 子 ② (橋 北)

Hn.

高 瀬 伸 一 ③ (嬉 野)
 田 畑 英 和 ③ (西橋内)
 佃 隆 之 ③ (亀山中部)
 ☆大 石 真 綾 ③ (附 属)
 東 智 子 ③ (嬉 野)
 森 由 佳 ③ (久居西)

Tb.

東 谷 洋 平 ③ (西 郊)
 荒 川 光 司 ③ (一 身 田)
 鈴 本 晶 子 ③ (一 身 田)
 浅 野 信 行 ② (一 身 田)
 ☆奥 山 秋 ③ (嬉 野)
 福 岡 由 佳 ② (大 山 田)

Euph.

山 本 真 里 ③ (一 身 田)
 ☆濱 口 輝 美 ② (一 身 田)

Tuba.

赤 塚 晋 也 ② (西橋内)
 ☆小 畑 淳 ② (一 志)

St. Bass.

☆海 住 由 貴 ② (一 志)

Perc.

岩 辺 晃 代 ② (創 徳)
 杉 本 貴 俊 ② (千代崎)
 福 原 史 子 ② (橋 北)
 ☆星 合 詳 子 ③ (一 身 田)
 若 林 真 希 ② (西橋内)
 渡 邊 綾 ② (橋 北)
 和 田 暁 子 ② (朝 陽)

☆ …… パートリーダー
 ○ 数字 …… 新学年

津西高名簿

部 長	南 部 幸 嗣	会 計	竹 内 志 乃
副 部 長	畑 裕 子	会 計	奥 山 綾
副 部 長	川 森 信 彦	指 揮 者	横 辻 慶 子
書 記	大 原 裕 子	指 揮 者	渡 邊 愛

Fl.

遠 部 裕 子 ③ (橋 南)
 国 吉 美 帆 ③ (関)
 中 西 裕 子 ③ (龟 山)
 奥 坂 真 理 ② (久 居)
 ☆佐 野 優 子 ② (神 戸)
 富 岡 直 美 ② (橋 北)

Sax.

櫻 井 聡 美 ③ (龟 山)
 横 辻 慶 子 ③ (西橋内)
 落 合 巧 ② (関)
 後 藤 知 子 ② (橋 南)
 ☆西 村 希 ② (嬉 野)
 渡 邊 愛 ② (龟山中 部)

Tb.

上 田 智 美 ③ (附 属)
 中 橋 大 輔 ③ (名張北)
 奥 山 綾 ② (南 郊)
 清 水 美 智 子 ② (橋 北)
 ☆畑 裕 子 ② (嬉 野)
 前 田 多 香 ② (橋 北)

Ob.

☆田 口 愛 子 ③ (朝 陽)

Tp.

阿 部 夏 美 ③ (西橋内)
 天 野 由 美 子 ③ (龟 山)
 浜 中 章 徳 ③ (白 子)
 渡 邊 里 香 ③ (嬉 野)
 川 森 信 彦 ② (関)
 ☆林 陽 子 ② (一 身 田)
 原 智 子 ② (久 居 東)
 森 岡 香 織 ② (橋 南)
 吉 森 裕 子 ② (附 属)

Euph.

水 谷 千 夏 ③ (一 身 田)
 中 尾 修 子 ② (名張南)
 松 本 安 代 ② (龟山中 部)

Fg.

☆田 中 美 枝 ③ (関)

Tuba.

岩 佐 善 夫 ③ (芸 濃)
 ☆苗 加 智 穂 ② (橋 北)

Cl.

櫻 井 千 景 ③ (龟 山)
 紫 村 雅 代 ③ (龟 山)
 樋 口 幸 代 ③ (橋 南)
 森 戸 千 鶴 ③ (名張北)
 大 原 裕 子 ② (久 居 西)
 ☆富 倉 綾 子 ② (一 身 田)
 南 山 朋 美 ② (橋 南)

Hn.

岩 上 純 司 ③ (名張北)
 谷 川 幸 伸 ③ (西橋内)
 ☆玉 木 聡 子 ② (西橋内)
 横 井 理 恵 ② (西 郊)

St. Bass.

伊 良 波 平 ③ (名張北)
 米 崎 公 美 ② (橋 北)

Perc.

北 岡 幸 恵 ③ (白 子)
 竹 内 志 乃 ② (白 子)
 伊 達 恵 ② (龟 山)
 古 川 紋 子 ② (白 子)
 ☆南 部 幸 嗣 ② (関)